

【作文中学生の部】

- 特選** 津山中学校 2年 阿部 眞子 「北上川の流れに思う」
- 特選** 東和中学校 3年 佐藤 瑛 「人の手で作られた輝き」
- 入選** 津山中学校 3年 櫻田 幸 「水は命の源」
- 入選** 津山中学校 3年 山内 秀悟 「水の大切さ」

北上川の流れに思う

津山中二年

阿部

眞子

普段何気なくあたりまえのように使っている

水、部活が終わった時に

「あ、のどかわいた、水のみたい。」

といて飲む水、冬の寒い日にあったかい湯

船に入って

「気持ちいいなあ。」

と思う水、料理や洗たくに使う水、それから

家では、農家をしているか、田植えの時に、田

んぼい、ばいにはりめぐらされる水、これら

はすべて、いづれもあたりまえのように使っている

か、実はあたりまえではないのだ。

それに気づかされたのは五年前のあの日、

東日本大震災の時だ。その時、家ではあ

んなにゆれたのにもかかわらず水が止まるこ

とはなかつた。しかし、母が仕事で働きに行

っている石巻市では水がすっかり止まっ

てしまった。飲んだり料理をする水も全く

なくなってしまうので、母が水のなる我が家

ポリ容器にくんで職場に運んでいった。と、
てもありかたがうられたそうだった。食べる物も、
無くてもみんなが困っていったそうなので、我が
家では、と汁やうどんやみそ汁を作っても、
ていつた。
あ、あの時の味は五年たった今でも忘れられな
い。
と何度も言われるそうだった。

その時は水洗トイレの水も使えが近くの間
から、バケツで水を運んで使ったそうだった。

そして電気が通るようになってや、とお風
呂に入れるようになり、知り合いの人か何人
も家にお風呂に入りた来て

っさ、ぱりして気持ちよかった。
と、いつ感謝して帰っていった。

また、私のいとこの家は石巻市にあり、津

波の被害にあつた。家は半壊し、床の上まで

泥水が上がり、といにおいかしで大変だった。

水が全く出なくなり、少しの水をもらふため

に他県から来た給水車の列に、何時間も何時

間も立ち、ばなしで並んだそう。家からモ
軽トラツクに水を積んで、何度が届けたそう
だ。

汚れた所をそいにするのにも、洗たくをす
るのにも、料理をするのにも水が無いと何
もできない。無くて一番困るのはや、ぱり
水だね。

と叔母やいとこたちが何度も言っていた。

そしてあの日から五年たつた今私は、朝
起きてご飯を食べるのに使われている水や歯を

みがくのを使う水、飲み水やお風呂に使う水
など多くの水を使って生活している。一人が
一日に使う水の量は、たいとれくらいの量
なのだろう。私は今、水の大切さを日々感じ
て毎日を過して、いるおかげではない。例え
ばシャワーを浴びる時は、おと水を出し、ば
なしにしてしまっている。こまめに水を止め
ることか大事だと分かっているかどうして
も自分の面倒くささの方が勝つてしまう。歯
をみがく時も水を洗い出し、ばなしにしてし

まい、よく母に
「出し、ばなしにしないの、も、たいない
と注意されてしまう。洗たくをする時も一度
に洗たくをせずにムダに何回も洗たく機をま
わしてしまふこともある。

五年前に、あんなに氷という存在のありが
たみを痛感したのにもう忘れかけてしまっ
ている。

私は毎日、自転車で北上川にかかる橋をわ
たって通学しているが、この大きな川の流れ
を見て

「私たちはこの水がないと生きていけない
だ」

と思い、自分の普段の生活をふり返り、水を
ムダにしている私自身が見えてきてしまう。

これからには、そんな私の普段の行動を改め
なければいけない。水道のいや口をひねれば
安全で安心して使える水がいっぱいでも出でくる
ありがたさを感じ、出し、はなしにしてしま
ったり、ムダに捨てている水を出さないよう

にすることを心掛けて生活していきたいと思
う。毎日見つめる北井川の水かせ、かくん
できてくれている幸せを、本当の意味で、有
り難いことだと思いながら。私は今日も、
北上川にかかる橋をわたる。

入の手で作られた輝き

東和中学校 三年 佐藤 瑛

アフリカの方では、泥水を飲むことがあり
ます。皆さんは、飲むことができませんか？日
本人は、皆無理でしょう。だって毎日日々の
生活で、透明でおいしい水を飲んでいるから
です。外国は、貧しい所だと、雨水や泥水、
近くに流れている川の水を飲んだり、食器を
洗ったり、洗濯をしていきます。とても残酷だ
と思います。このことなどが理由で小さい

子から高齢者まで病気などに苦しむ悲しんで
います。きれいな水になると、子ども達は犬
きいバケツなどを持ち匂キ口も歩き小さな蛇
口まで汲みに行かなければなりません。なぜ
こんなにも子ども達は、苦しむ疲れなければ
いけないのでしょう。日本のような水道局の
設備や技術が無いからだと思います。多くの
海外協力隊の皆さんが支援に行っていますか
現実には、たくさんさんの課題があります。私は
水と言う一文字がこんなにも重要で、影

響力があるのだと思いました。

日本は、とても「水」と言うものに恵まれ
ており幸せだと痛感しました。とても感謝し
なければいけないと思います。洗濯する水、
食器を洗う水、お風呂に使う水、ごはんを作
る水……。どれもがきれいで透き通ったおいし
い水を利用することができません。これが日本
人にとって当たり前なのです。
しかし、当たり前過ぎて人は、知らないう
ちに「水」というものの大切さを意識しなく

なってしまうのです。人の体は、体重の約
五十三%が水分です。しかも、呼吸し
水をたくさん飲み、生き続けているのです。
また、人間のみなならず動物や植物は生命を持
って存在しているのは、全て水によつて生か
されていきます。花も水をやらなければ、下を
向き一枚一枚散り死んでゆきます。だから毎
日水が必要不可欠なのです。水というものが
なければ世界は生きぬいてゆけないのです。
私たちも皆実感したでしょう。それは、東日

本大震災です。どれほど水が無くて苦しく悲
 しかつたことか。久しぶりに温かい水に触れ
 た時のうれしさ、水を飲める幸せ。私は
 震災によつて外国の貧しい人たちの苦しさに
 共感することかできました。そのことにより
 私は、水というものがたさを見つめ直す
 ことができました。

水がタタタと流れる水、飲み残る水、無駄に
 流している水、それらは水不足に苦しんでい
 る人たちのことを思えば、あまりにも悪いと思

います。もう少し水の大切さを知り、節水し
 てほしいと感じました。水の一滴一滴は、水
 道局の皆さんが化学検査や生物検査など五十
 項目もの検査基準から最も適した方法で検査
 し、私たちの体に絶対害を入れないよう一つ
 一つ自分の目で見て、丁寧に仕上げています。
 水は、努力の結集、輝くダイヤモンドなので
 す。私たちは、水道局の皆さんのおかげで、
 安全でおいしい水が飲めるのです。水道局の
 皆さんは、水と同じくらい私たちにあって大

私の家では、毎日お米を洗った水を残し、
 皿を洗う時に使ったり、お花に水をあげる時
 に使っています。少しでも水を無駄にしない
 よう心がけています。皆さんも小さなことで
 も良いので心掛けてはどうでしょう？ 小さな
 存心でも毎日心掛けてやればとても大きな
 「節水」になるのです。皆さんの小さな実践
 が水不足の人々を助けることができるかもし
 れません。苦しい人々のため、自分のため、
 世界のために一人一人が「実行力」を意識し

切な存在なのです。
 私は、この作文を書いたことにより、水が
 いかにも私たちに大切に掛け替えのない存在か
 を振り返ることができ、私は良かったと思
 いました。私は、これからこの長い人生を歩
 む中で、水道水を絶やさぬように節水を呼
 び掛けます。長い人生、何か手た起こる可能
 性があります。その時に震災で学んだことを
 活かし、水を有効に使うことができると
 努力していきたいです。

てくださいます。いっかきと水を大切にしたいことによつて自分にたくさん幸せが返つてくることになりました。

水は、私たちの生命の維持や健康的な生活のための土台なのです。水道局の皆さんは、飲料水を衛生的に管理し、安定して供給するため日々がんばつてくださっています。私たちも水道局の皆さんに感謝しながら協力できることを考えるべきです。そして良い提案やアイデアがあれば、ぜひ紹介し合いましたらう。

山や川から生み出されてくる自然の水を、水道局の皆さんと一緒に守り、作っています。いんです。無色透明で異常な臭味などは、いっさいありません。感染症が発生するような有害な物質や病原生物などもまったく含まれていません。このような水を私は「輝く水」と呼びたいです。

水道水の蛇口のもこうには、水道局の皆さんの情熱と高い技術があります。それを受け取る私たちが、水道水を愛していきたいです。

水は命の源

津山中学校三年

櫻田 幸

蛇口を捻れば、いつでもどこでも水は出る。

そう思っていた。

しかし、五年前の東日本大震災。透明な水

が出るはずの水道から出てきたのは茶色に

濁った水だった。水をもらいに行った祖父

が話していたこと。

隣の町は漸く水で大変らしい。ここは原

悪いけれど、飲み水以外には使えろからおい。

この時、改めて水の大切さを身に染みて感じ

た。水は私たちの生活のたくさんの事に関わ

り、役に立っているのだと分かった。

小学校の時、浄水場の見学に行った時にも

気づかほか。たこを震災が起きてから、そ

して水が使えるはずから、必要性に気づ

かされるはずで、思ってもおほかた。

四月の熊本地震。震災直後はたくさんの入

々が飲み水に困り、給水所にポリバケツを持

ちながら、長蛇の列をつくっている光景を

レジで見た。そして今だに水道管が直らず、
断水している世帯も多い。そのため、東日本
とは違う気温、暑さの中で避難者たちは汗も
かくし、食中毒の恐れもあるのだ。手洗いだ、
てままほらない。そんな中、たば避難してい
るだけでなく、後片づけもある。水に困ると
いう状況がどれほど過酷で大変な事なのか考
えさせられた。
また、かつい隣町で家の前を流れる沢の水
を利用し、洗濯や米とぎ、茶碗洗いや、多
くの家庭がたくさんの事に使ったため、集団
赤痢になったという事例もあると聞き、水道
が衛生的に守られていることのありがたさと
いうものが本当によく分かった。
私たちが人間は自然と共に生きている。どれ
だけ科学が進歩したとしても、常に災害の危
機があることを忘れるが、日頃の水道に拜する
感謝の心を持たなければいけない。
雨は田畑を潤し、海水は魚や海藻を育てる。
全ての生命は水に成り生かされている。たば

し、人間は清潔な水でなければ、飲み水として
は享受できないのだ。その水こそが水道の原
点であるのかも知れない。
一人一人が一日に使っている水の量は、およ
そ三百リットルだ。それを川や井戸から運ぶ
には、とてつもない労力と時間がかかり、不
衛生である。そのため水道水は、私たちの健
康を守ってくれているのだということを突感
した。
「水は命の源である」。そのため、蛇口をひ
ぬけばいつでも出てくる水道は私たちにとっ
て、不可欠なものであり、感謝すべき対象な
のである。
世界の中には、私たちの住む日本とはちが
い、水道が通っていない国もあり、私たちく
らいの子どもや私たちがより幼い子どもが、水
を求め、湧いている水を汲みに行く所さえあ
るのだ。何事もなく水道を使っている私たち
は、本当に幸せ者だと思われなければならない。
今、こうしている間も世界では水のサイク

ルができています。その一部が私たちが飲んだ水道水であり、私たちが使った水道水である。蛇口をひねれば水は出てくる。単純に思えていたことがこんなに大きく生命を維持してくれるもので大切なものなのだ。

水道こそが、私たちの「命の源」である。その水が私たちに届くまでに、たくさんの方の手や多くの技術を要し、長い年月をかけた。ことも忘れてはならないのだ。

一滴の水が未来を変え、世界を変える。救えるはずの人たちの未来を一滴の水が左右するのだ。あるのだ。水道が通っていない地域はどれだけの努力を使い水を手にするのか、もう一度考えてみてください。大切なものではまいかと今さらながら私は思っている。身近にあるものだからこそ、気がつかないのかもしれない。だが、この水道は、たくさんの方の一人一人の生命を育んでいて、人間を大きくしている。手のひらで包んでくれているというのを、私たちが忘れてはいけません。

か。

朝起きて顔を洗う、食事の用意、食器を洗
う、歯みがき、洗たく、手洗い、お風呂、シャ
ンプー、これはふつうのこと。学校で、職場
で、私たちは常に水の恩恵を受け生かされて
いるのだ。時には、この安心安全は水を供給
してくれている皆さんのことを思って、感謝
しながう、毎日の生活を送りたい。

水の大切さ

津山中学校三年 山内 秀悟

「ああ暑い。のどがかわいた。」

私は蛇口をひねる。するとすぐに新鮮な水が出てくる。

「ああおいしい。」

私はその後気がついた。このようにおいしい水を飲むことができるのは実はとても幸せなことだと。

これがなぜ幸せかと、考えさせられたことがある。

世界にはこの水を手に入れるために、遠い数十キロ離れた川などに数時間かけ一行かなければならない国や地域がある。

それに、手に入れた水が本当に安全で入体に影響のない水とは限らない。

世界には水不足の国がたくさんある。日本は安全な水を飲むことができているが、一部を除いたアジアやアフリカ全域、南米諸国などを中心とした国々、約三十か国が十一億人

の入が水不足に悩んでいるといわれている。
しかしなぜ地球の多くは海や川などの水に
困まれているのに水不足になるのか。

それは、地球全体にある九十七から九十八パ
ーセントは海水で、淡水はわずか三から二パー
セントしかないそうだ。海水は塩分が含まれ
ているのでそのままでは生活用水には使えな
い。

さらに、その淡水でも約七十パーセントは
氷河になっっている。使える淡水は地球全体
で限られていくという。

日本はどうしてこんなに水道が通っていない
水が豊かなのだろうか。

日本では室町時代後期、相模の戦国大名の
北条氏康によっ、小田原城下町に小田原早
川上水が建設されたのが水道の始まりといわ
れられている。それから明治時代初期になり、西
南戦争が起きた時には長崎からコレラが大
にやっ、いき、夫、く、さ、ん、の、入、が、た、く、な、っ、た、大
正時代末期ですら普及率は二十パーセントに

とどま、ていたそうだ。昭和時代に戦後復興と高度経済成長期を経て飛躍的に普及し、昭和五十年ごろには一部を除き日本全国に上水網が完成した。

たくさんの人の苦勞や知恵や努力があ、て今の水道があるのだと分かる。

厚生労働省によると平成二十七年年度の日本の水道普及率は、九十七・七パーセントという数値だ。た。

日本などの先進国は水を簡単に手に入れることができるの、てそれが当たり前だと思、てしまいがちだが、それはち、とも当たり前のことではない。

蛇口があ、てそれをひねれば安心、安全な新鮮な水が出、てくることは本当に幸せなことなのだ。

だからこそ、これからの生活の中、水を大切に使、ていくことが大切だと思、た。例えば歯みがきや顔を洗う時、お風呂に入るときは水を出し、てはなしにしないこと、や洗い物を

増やささないなど、考えてみればたくさん
の場
面が浮かんでくる。これを実践して
みるだけ
で、いぶく人節水することができる。
一入水とりが協力し合うことで水のムダ使
いがされなくなります。

もし、水がなか、たらどうなるの
だろうか。
まず、料理をすることができなくなる。
食
器を洗うこともできない。お風呂に入ること
もできない。顔を洗うことも歯をみがくこと
もできない。けがをしたとき、傷口を洗うこ

ともできない。やけどをしたとき、命やすこ
ともできない。洗車することもできない。水
がなければ飲み物もほとんどなくなってしまう。
う。そもそも人間の体は約六十パーセント
七十パーセントが水分でできているというの
に、水を飲むことができないと脱水症状とな
り死んでしまうということもあるはずだ。

この世界に水が存在していか
ないか。たら人間
だけなく生物全てが死んでしまうことにな
る。

それも水がなければ生物は誕生していか
か。たと思う。水はそれだけ大事なものの
だと実感した。

今の日本の水道の普及率はまだ百パーセン
トに達していないの。いつか百パーセントに
達する日が来してほしいと願っている。

そして、まだ水不足の地域がたくさんある
ので少しでも解消していきたい。普及率がどん
どんどんと上昇してほしいと思いた。

私はこれから、安全で安心な水が手に入る
ことに感謝しながら生きていきたいと思う。